

salesforce

Salesforce活用の為の データ基盤整備とは



01. Salesforce 活用におけるデータ整備の課題
02. データ連携基盤を活用したDX実現のポイント
03. Salesforce活用の為のデータ基盤整備
04. Appendix ノーコード型ETLサービスReckonerとは

01

Salesforce 活用におけるデータ整備の課題

■ 顧客情報の共有化

- Salesforceを始めとしたSFAを導入する事によって、顧客情報・案件情報を一元管理し、チーム全体でリアルタイムに共有することが可能になる。

■ 営業活動の可視化によりタイミングを合わせたアクションの実施が可能

- メンバーの活動とその結果がデータとして可視化が可能。それによってどの顧客に対しても、最適なタイミングで営業活動を実施することが出来る。

■ 正確な営業情報の可視化によって経営判断がスピードアップ

- 営業部門内での顧客情報や売上予測の算出などを通じてニーズの把握や業界内の情報などを精度高く分析が可能。結果的に経営判断のスピードアップに繋がる。



複数のシステムが乱立し、データのサイロ化が起きる

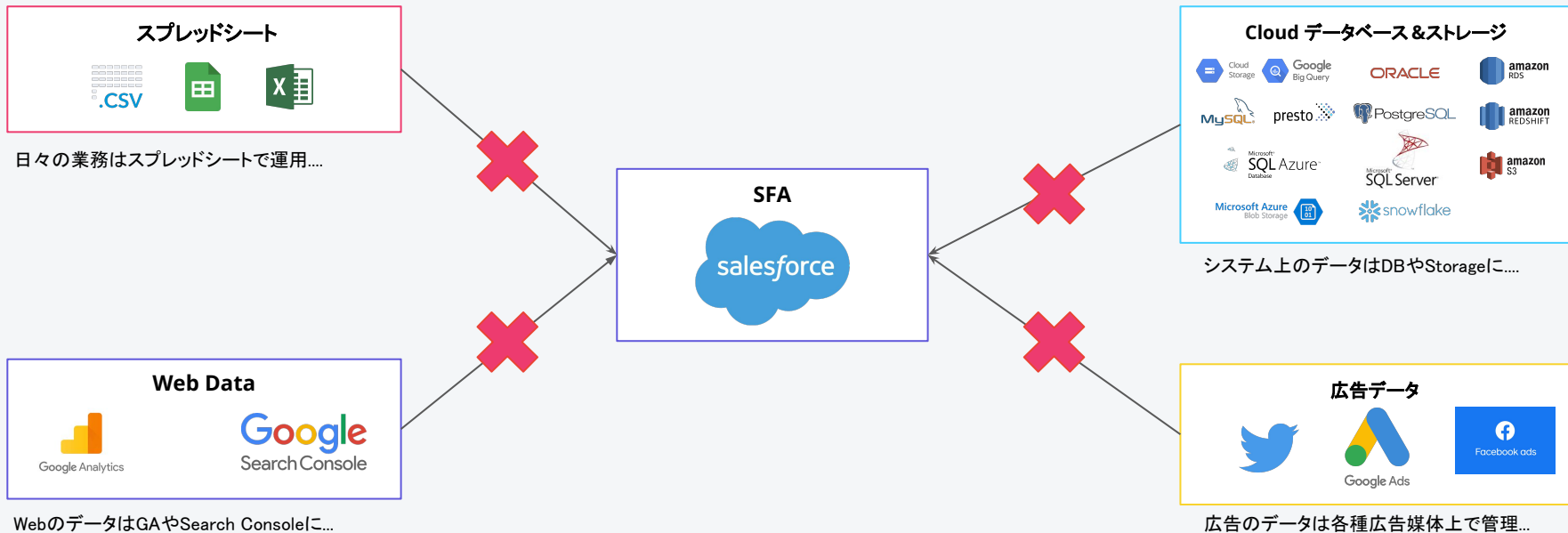


レガシーシステムとSalesforceのデータ連携が足かせとなる

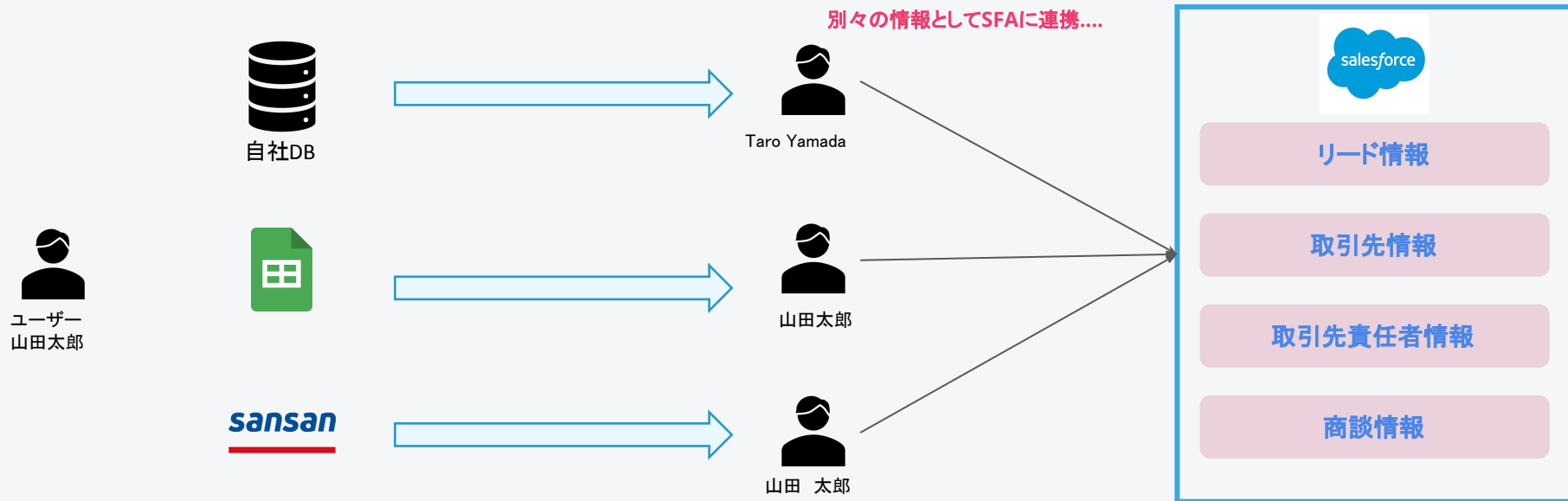


データ加工 / 名寄せ / データクレンジングをしなければならない

データのサイロ化とレガシーシステムの連携の壁



営業のデータはSFAとしてSalesforceに蓄積する事が可能だが、「システム」上のデータや「Web / 広告データ」とは連携できていない為、結果的に多角的な分析が出来ない状況に。更にレガシーシステムを利用している場合はそのコストも膨大となる。その他、日々の運用はスプレッドシートで運用しているようなケースではSFAへのデータ取り込みなども大きな課題となる。



単なる「データ連携」のみでは不要データの削除や名寄せ、データクレンジング等が行われないうえ、別々の情報として扱われる可能性がある。

データ蓄積が十分にされていたとしてもこういった処理を適切に行わないと結果的に「価値のないデータ活用」となってしまう可能性が高い。

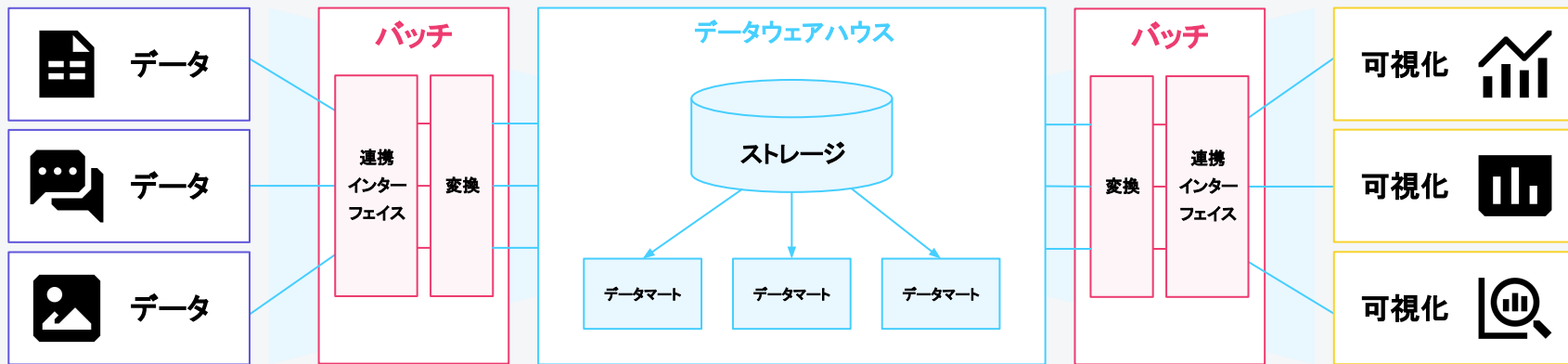
Salesforceを始めとしたSFAを活用するためには
これらの課題を解決するためのデータ連携基盤の整備が必須

02

データ連携基盤を活用した DX実現のポイント



通常、データ連携を実施するためには多くのコストが必要。連携間のバッチ処理の実装コスト、実装した処理のパフォーマンス・情報漏洩を防ぐセキュリティ性の担保。さらに各実装が実装したエンジニアに属人化しがち。

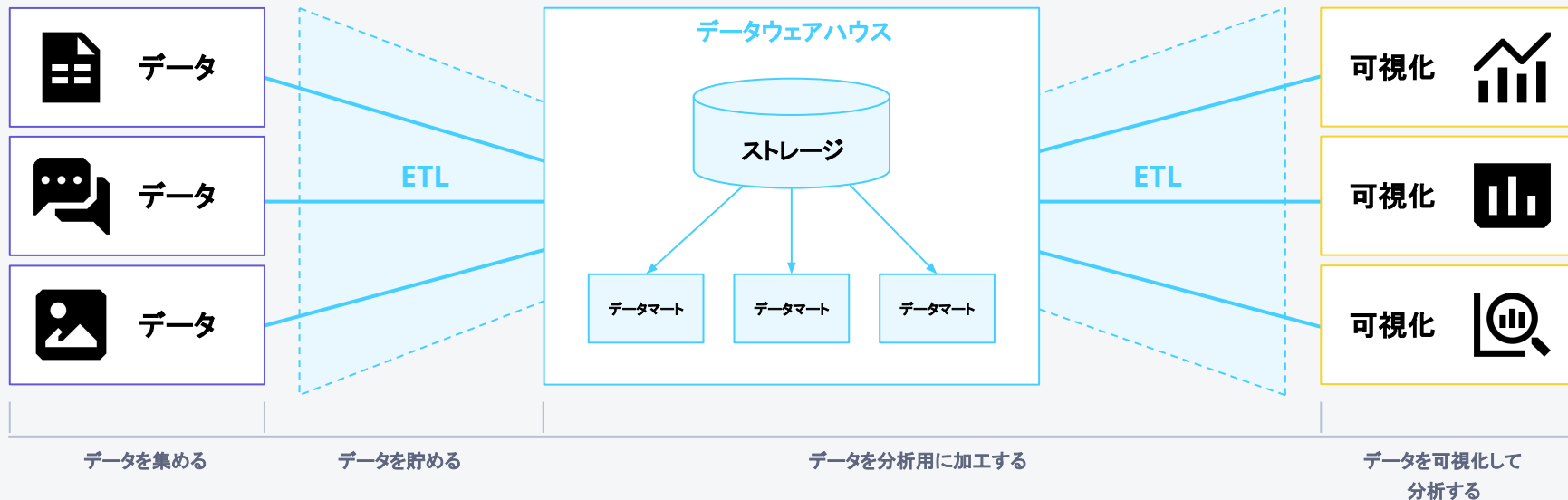


データの流れや、処理の中身が実装したエンジニアに属人化

- ▶非エンジニア部門ではデータの流れがわからない
- ▶DataとOps(業務)が離れてしまう

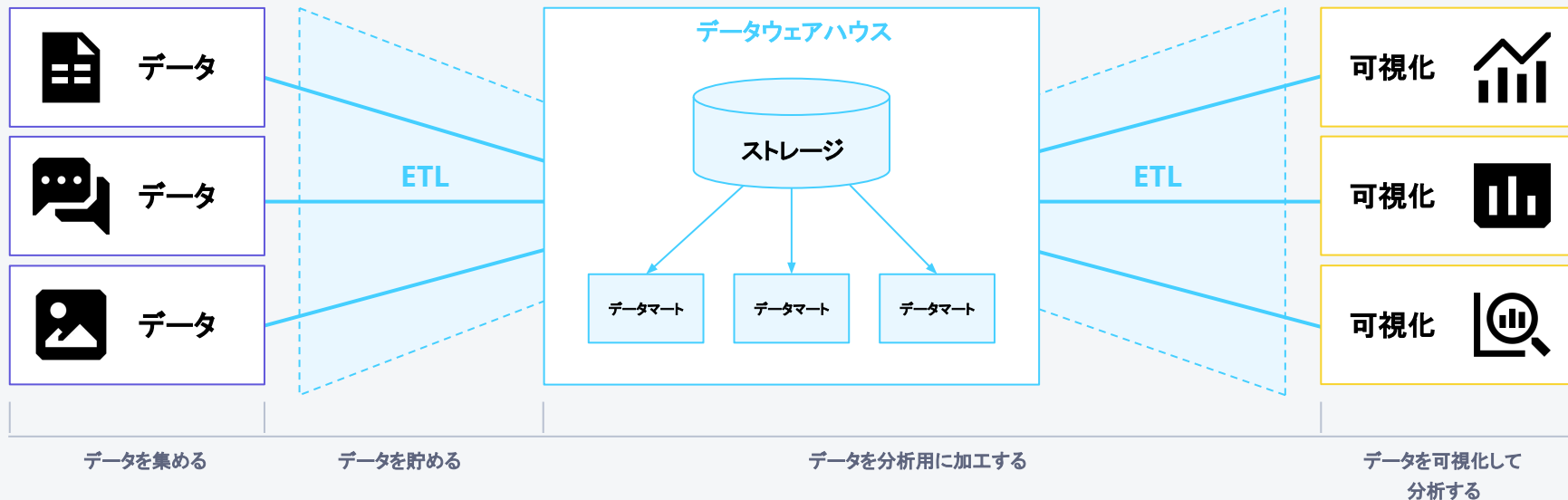
① 再現性(誰でも触れるか、PDCAしやすいか)

データをエンジニアだけが見えるモノではなく、非エンジニア(セールス・マーケティング・業務など)部門に対しても、データの連携・流れの見える化を行い、共通言語で話せるように**データの民主化**を行う必要有。そうすることで再現性が高く属人化させずにPDCAを回すことが可能。



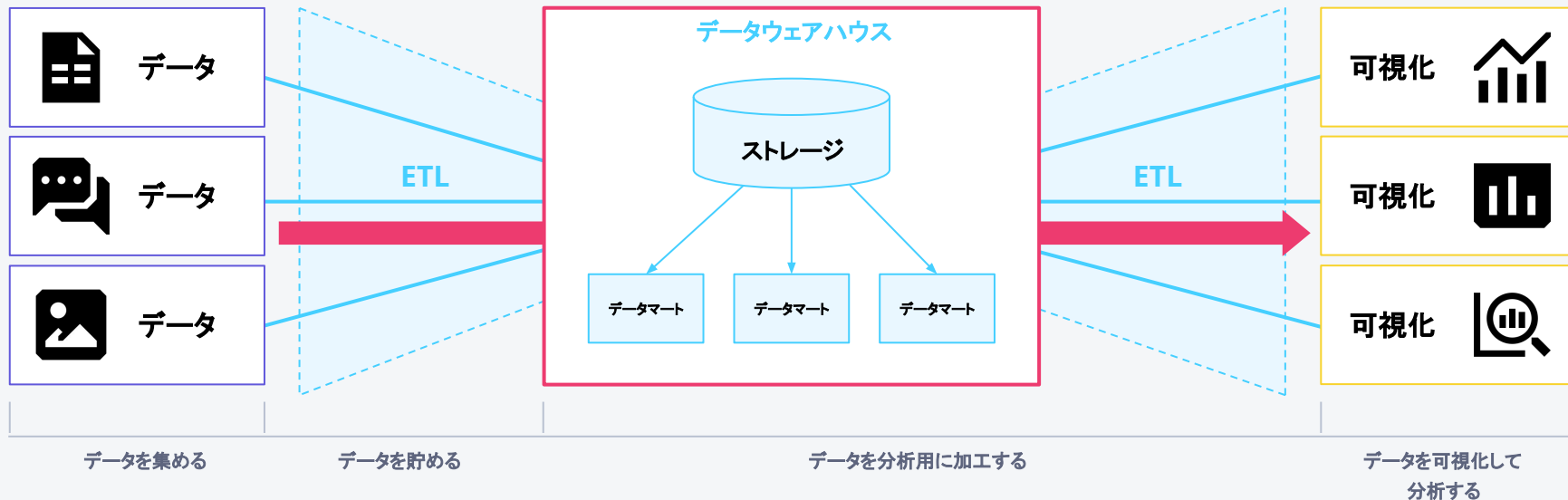
② データ基盤構築コスト(設計/開発・構築/保守)が低い

データソース⇒DWHへ、DWH⇒ツール・DBへデータ連携をする際に、連携ごとに個別のバッチを作成すると、設計/開発コストが高い。また、仕様やバージョン変更の際に再構築/保守のコストが発生。更に、設計/開発そして再構築/保守において低コストでデータ基盤を構築するインフラレイヤーの課題も浮き彫りに。



③ セキュリティとパフォーマンスの管理

データ連携の際に、処理に時間がかかってしまい、パフォーマンスが低ければ業務効率化の支障に。また、DWHのセキュリティをどれだけ強固にしてもデータ連携間で情報漏洩してはサービス/事業存続の危機に。データ連携間でのパフォーマンス・連携するデータ安全に連携するセキュリティが不可欠。



- 1 **再現性**(誰でも触れるか、PDCALしやすいか)
- 2 **データ基盤構築コスト**(設計/開発・構築/保守)が高い
- 3 **セキュリティとパフォーマンスの管理**

この3つを備えたデータ活用環境を整えること(クラウド型ETL導入)が重要！

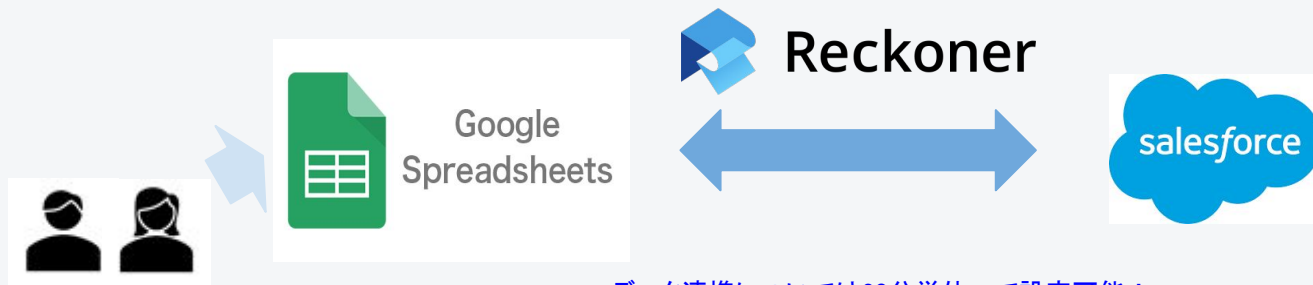
03

Salesforce活用の為のデータ基盤整備



■スプレッドシート連携をすることによる利点

- スプレッドシートに入力したデータがsalesforceに同期されるため、Excelライクな操作感でデータを更新できます。
- 通常手動でしか反映できない業務もReckonerを利用すれば自動で連携・同期が可能です。
- salesforceアカウントを発行する必要がなくなり、スプレッドシートを配ればOKなので、コストが削減できます。



データ連携については30分単位〜で設定可能！
また一度ワークフロー設定すれば自動的に連携！
※データ容量により処理時間の差異があるため、考慮が必要です。

【活用例】

- ・営業・インサイドセールスのアプローチ状況・変更を効率化
- ・販売管理、請求情報業務の効率化
- ・カスタマーサポートの顧客情報入力の効率化

ユースケース:Spreadsheet連携による営業活動の効率化

課題: 営業結果をSalesforceに反映するのに時間や手間がかかる。Excel、スプレッドシートの操作に慣れているため、クラウド活用に抵抗がある。

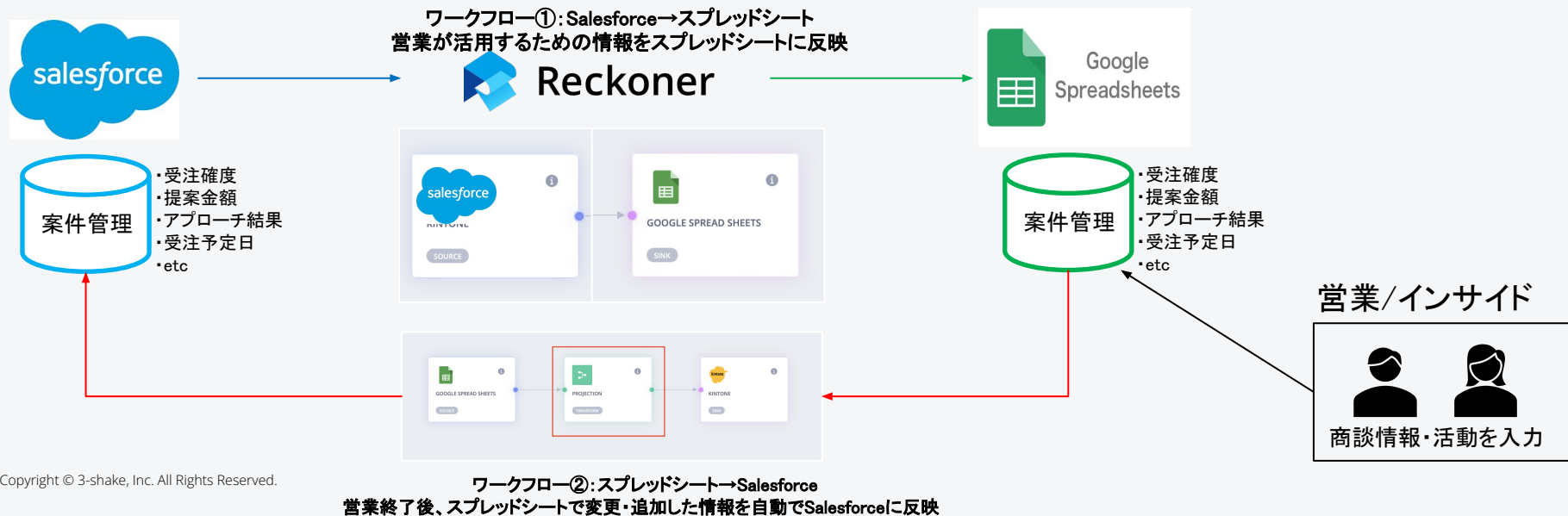
解決: Salesforceとスプレッドシートを連携。営業/インサイドセールスはスプレッドシートに情報を記載。

営業終了後、スプレッドシートの情報をReckonerを利用して、Salesforceに反映させデータを最新版に変更させる。

結果: 操作に慣れているスプレッドシートを活用することで営業のストレスがなくなり、スムーズに営業活動の効率化UPに繋がった。

また自動でSalesforceに営業情報が反映されるため、データが常に最新版となり、精度の高いレポートが確認できるようになった。

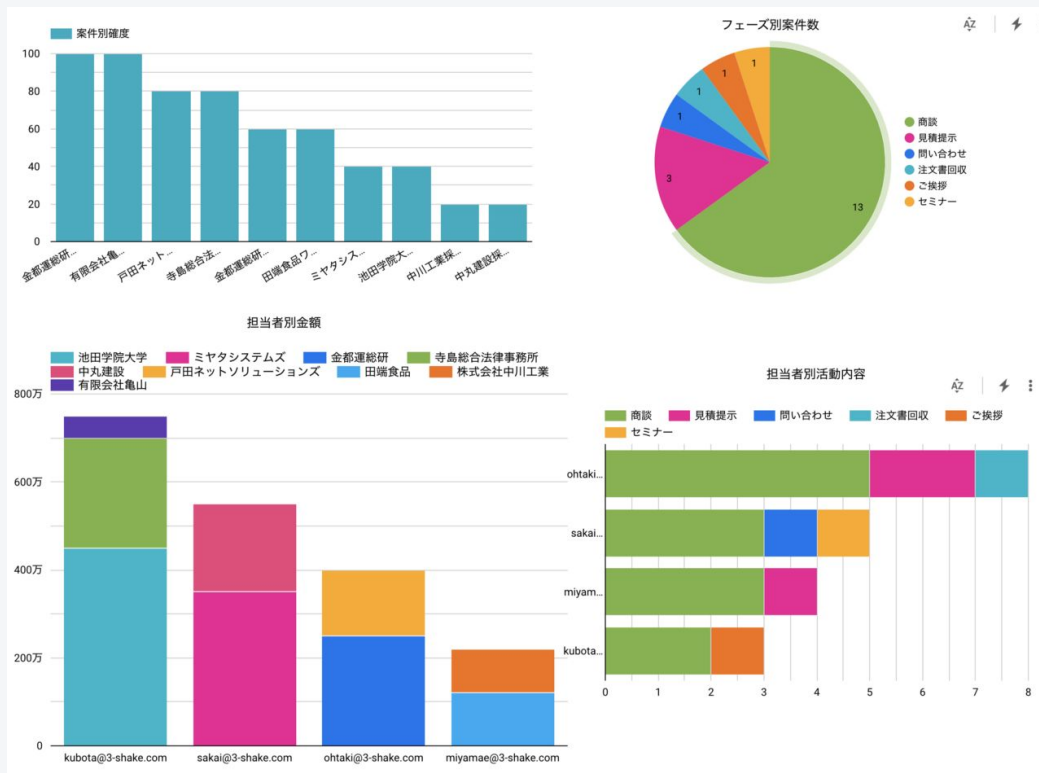
ポイント: 通常手動でしか反映できない業務もReckonerを利用すれば自動で連携・同期が可能です。



SalesforceのデータをBigQuery・Googleデータポータル(BI)を利用することでグラフィカルにダッシュボードを作成。



※データポータルの利用は無料となります。
BigQueryについてはストレージ10G、クエリ1TBまで無料となりますが、上限を超えた場合、従量課金となります。





情報共有コストの削減

事業KPIや顧客データなどを自動で共有することによって組織内の情報共有を円滑に



課題の発見及び戦略の立案

日々の施策の効果や、顧客行動を分析することで、データドリブな施策の立案が可能



施策の費用対効果の向上

ターゲティング精度向上によるマーケティング・セールス施策の費用対効果の最大化

04

Appendix

滑らかなデータ基盤を実現する
クラウドETLサービス Reckonerとは



クラウド型ETLサービスの決定版

データ連携作業の工数を 大幅削減

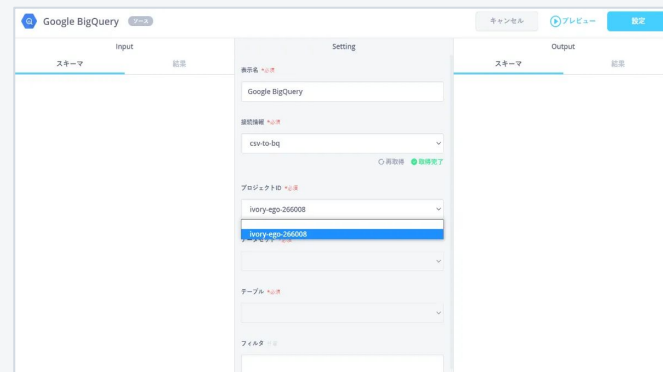
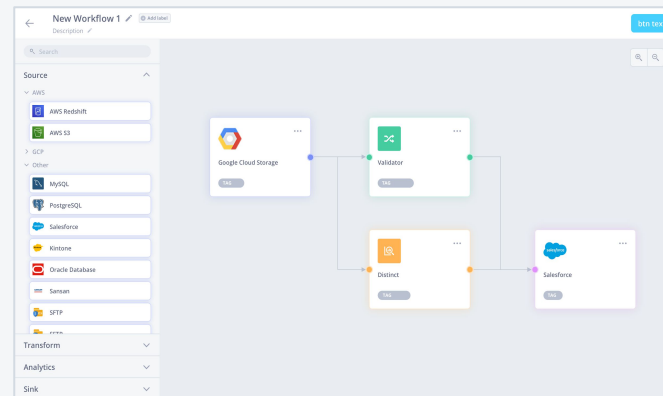
Reckonerはクラウド型ETL/データパイプラインサービス

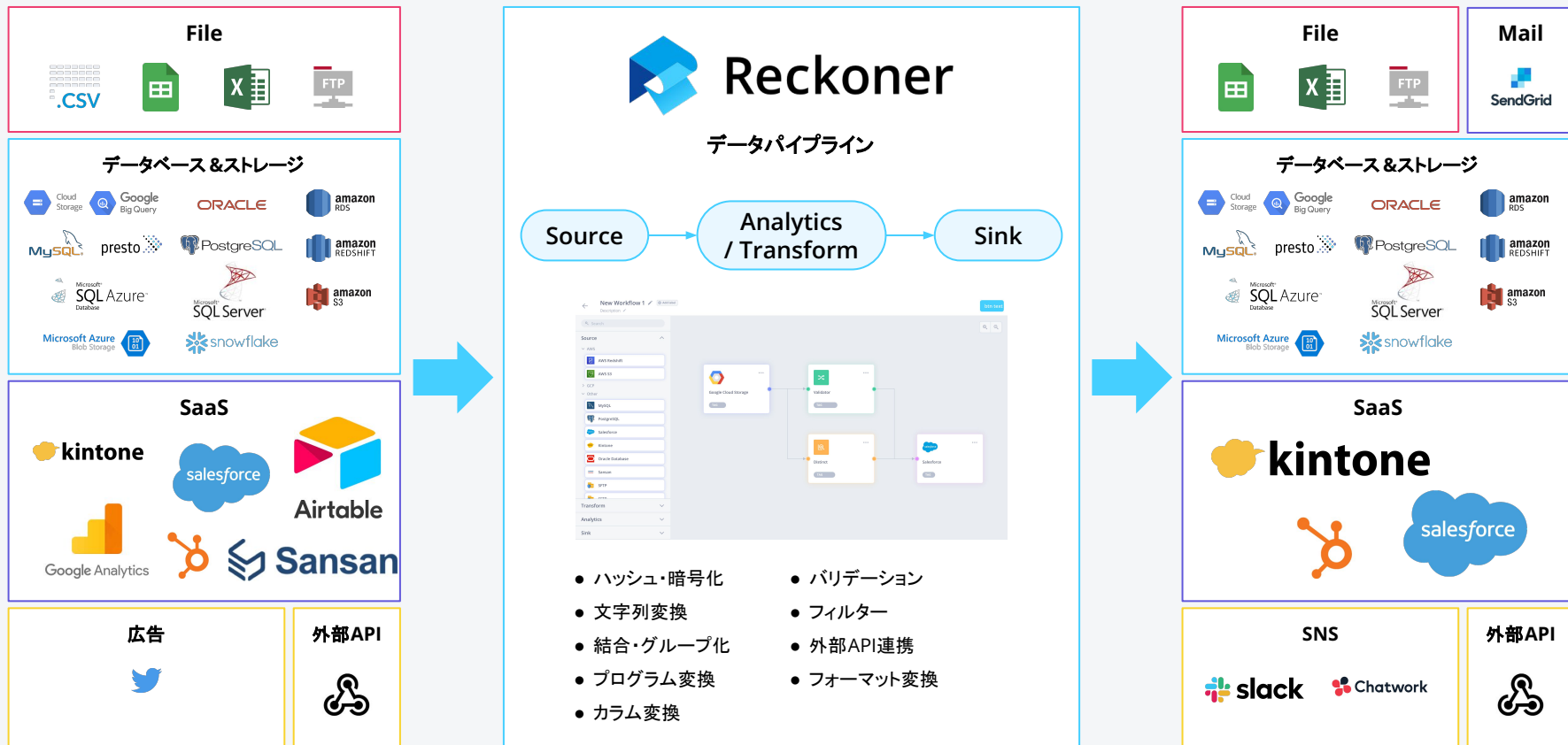
とことん使いやすさを追求

「仕様策定(プログラム設計)→実装→テスト→基盤構築→運用」と通常だと

非常に煩雑なデータ連携を、Reckonerは全てGUIで完結。

データ活用をこれまでにない直感的な方法で実現可能。





データソース

データマネジメント / 統合

データウェアハウス /
データマート / 機械学習

可視化

① 再現性(誰でも触れるかPDCAしやすいか)

▶ 非エンジニアでも一目でデータの流れるわかるUI

② データ基盤構築コスト(設計/開発・構築/保守)が低い

▶ バッチ処理など一切のプログラム不要!

③ セキュリティとパフォーマンスの管理

▶ SREのプロフェッショナルであるスリーシェイクが提供

▶ 快適に運用できるパフォーマンス性と高いセキュリティを実現

Reckonerはこの3つを備え、データ統合/活用に必要な環境を実現

Point
1

ノーコード

Point
2

豊富な連携先

Point
3

直感的に
操作可能なUI

Point
4

プレビュー機能

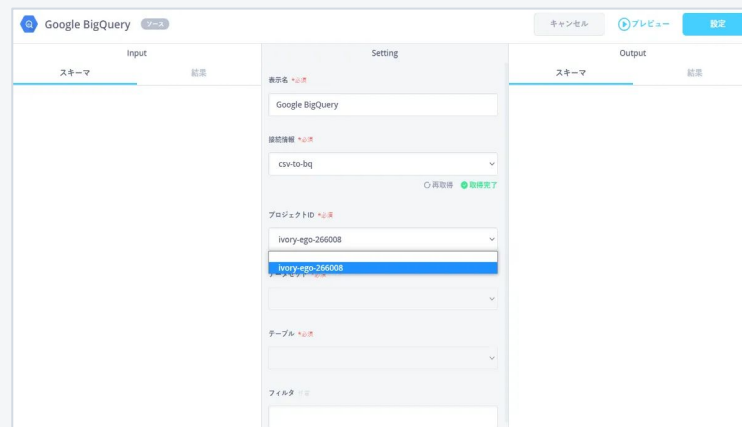
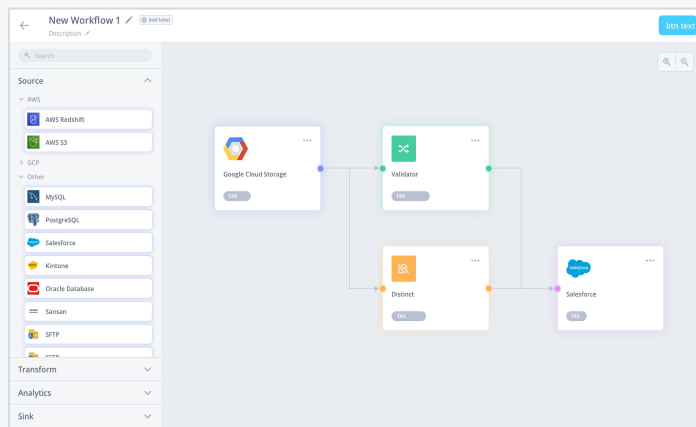
Point
5

安全なインフラ
セキュリティ



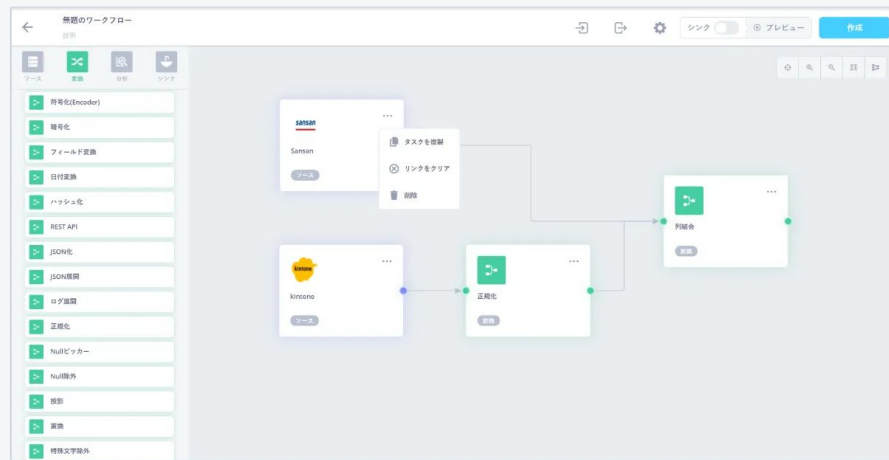
通常データ連携では、バッチの制作が必要。

しかしReckonerなら、**一切のプログラムは不要。**
ワークフローの作成というシンプルなステップのみで実装可能。



初期の設定～デプロイまで、 全ての操作が驚くほど直感的に設計

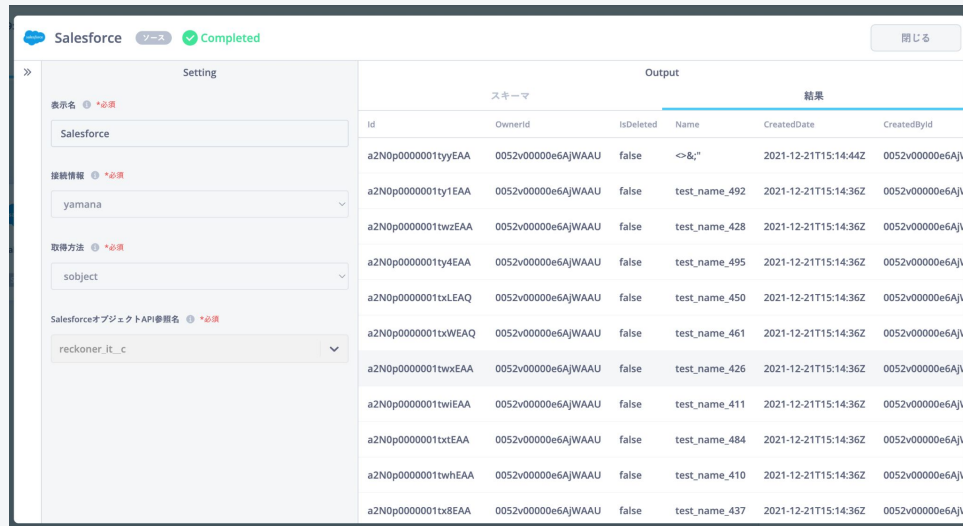
複数データソースからのデータ連携や、リアルデータでのプレビューなど、データ連携のかゆいところまで考慮され、非エンジニアでも扱いやすい設計



リアルデータで変換や結合の プレビューが可能

通常の実データ解析では、想定通りのデータが得られたか確認するために、検証環境の構築など様々なステップを得てデータ処理のフローを1つ1つ確認が必要。

しかしReckonerなら、画面上にリアルデータで処理結果のプレビューを表示することができ、常に結果を確かめながら操作をすることが可能。



The screenshot shows the Reckoner interface for a 'Salesforce' job. The job status is 'Completed'. The 'Setting' panel on the left includes fields for '表示名' (Salesforce), '接続情報' (yamana), '取得方法' (subject), and 'SalesforceオブジェクトAPI参照名' (reckoner_it_c). The 'Output' panel on the right displays a table with columns for 'スキーマ' (Schema) and '結果' (Result).

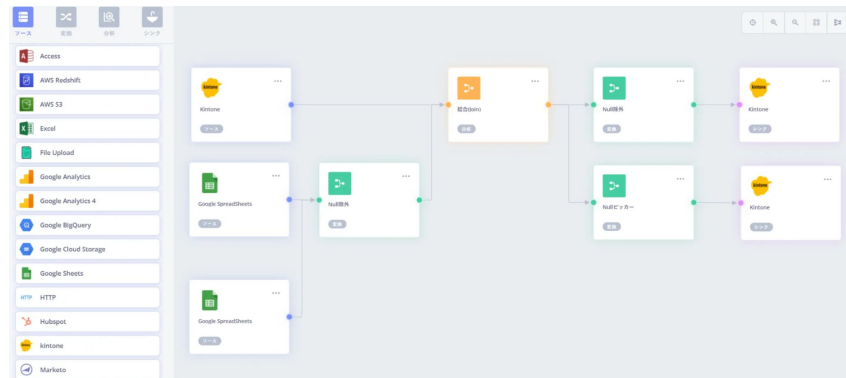
スキーマ		結果			
id	OwnerId	IsDeleted	Name	CreatedDate	CreatedById
a2N0p0000001tyEAA	0052v00000e6AJWAAU	false	<>,&,"	2021-12-21T15:14:44Z	0052v00000e6AJW
a2N0p0000001ty1EAA	0052v00000e6AJWAAU	false	test_name_492	2021-12-21T15:14:36Z	0052v00000e6AJW
a2N0p0000001twzEAA	0052v00000e6AJWAAU	false	test_name_428	2021-12-21T15:14:36Z	0052v00000e6AJW
a2N0p0000001ty4EAA	0052v00000e6AJWAAU	false	test_name_495	2021-12-21T15:14:36Z	0052v00000e6AJW
a2N0p0000001txLEAQ	0052v00000e6AJWAAU	false	test_name_450	2021-12-21T15:14:36Z	0052v00000e6AJW
a2N0p0000001txWEAQ	0052v00000e6AJWAAU	false	test_name_461	2021-12-21T15:14:36Z	0052v00000e6AJW
a2N0p0000001twxEAA	0052v00000e6AJWAAU	false	test_name_426	2021-12-21T15:14:36Z	0052v00000e6AJW
a2N0p0000001twIEAA	0052v00000e6AJWAAU	false	test_name_411	2021-12-21T15:14:36Z	0052v00000e6AJW
a2N0p0000001txtEAA	0052v00000e6AJWAAU	false	test_name_484	2021-12-21T15:14:36Z	0052v00000e6AJW
a2N0p0000001twhEAA	0052v00000e6AJWAAU	false	test_name_410	2021-12-21T15:14:36Z	0052v00000e6AJW
a2N0p0000001tx8EAA	0052v00000e6AJWAAU	false	test_name_437	2021-12-21T15:14:36Z	0052v00000e6AJW

SRE(サイト信頼性エンジニアリング)に強い当社スリーシェイクのインフラ環境であり、**別途のETL基盤準備が不要**。つまりデータエンジニアリングをする上で、**可用性やバックアップ・セキュリティ対応などが不要**。
またPreview機能により、**ドライランも実施可能**。



データ連携作業工数 を大幅削減

Reckoner(レコナー)はクラウド型 ETL/データパイプラインサービスです。使いやすさを追求し、新たなデータ連携もストレスフリーで行うことが可能です



Thank you.